

2016年の金融マーケットを振り返って

2016.12.27



株式会社お金のデザイン

取締役COO

北澤 直

<総括>

2016年はイベントが目白押しの1年となりました。政治イベントでは、英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票（Brexit）、米国では大統領選挙が実施されました。また、金融政策では、年初に日本ではマイナス金利が導入され、欧州でも追加金融緩和がありました。米国では12月に1年ぶりに利上げが行われ、主要国で金融政策のスタンスに違いが見られた年となりました。様々なイベントは金融市場にも大きな影響を与え、特に2つの政治イベントは予想外の結果となり、プロの投資家にとってもチャレンジングな相場環境だったことが予想されます。各資産クラスで1年を振り返ってみましょう。

<直近の市場>

市場	指標	2015年12月末	2016年12月19日	変化率 (%) 債券は差分 (%)
株式 (株式指数)	NYダウ (米国)	17,425.03	19,883.06	14.11%
	ユーロストックス50 (欧州)	3,267.52	3,257.85	-0.30%
	日経平均株価 (日本)	19,033.71	19,391.60	1.88%
国債 (国債利回り)	米国10年国債	2.27%	2.54%	0.27%
	ドイツ10年国債	0.63%	0.25%	-0.38%
	日本10年国債	0.27%	0.08%	-0.19%
社債 (社債上乗せ金利)	投資適格債 (Barclays US Corp OAS)	1.55%	1.19%	-0.36%
	ハイイールド債 (Barclays US HY OAS)	6.60%	4.07%	-2.53%
為替	ドル円 (WMロイター)	120.30	116.92	-2.81%
	ユーロ円 (WMロイター)	130.68	122.03	-6.62%
商品	原油 (WTI先物)	37.04	52.12	40.71%
	金 (LBMA)	1060.00	1136.25	7.19%

<株式市場>

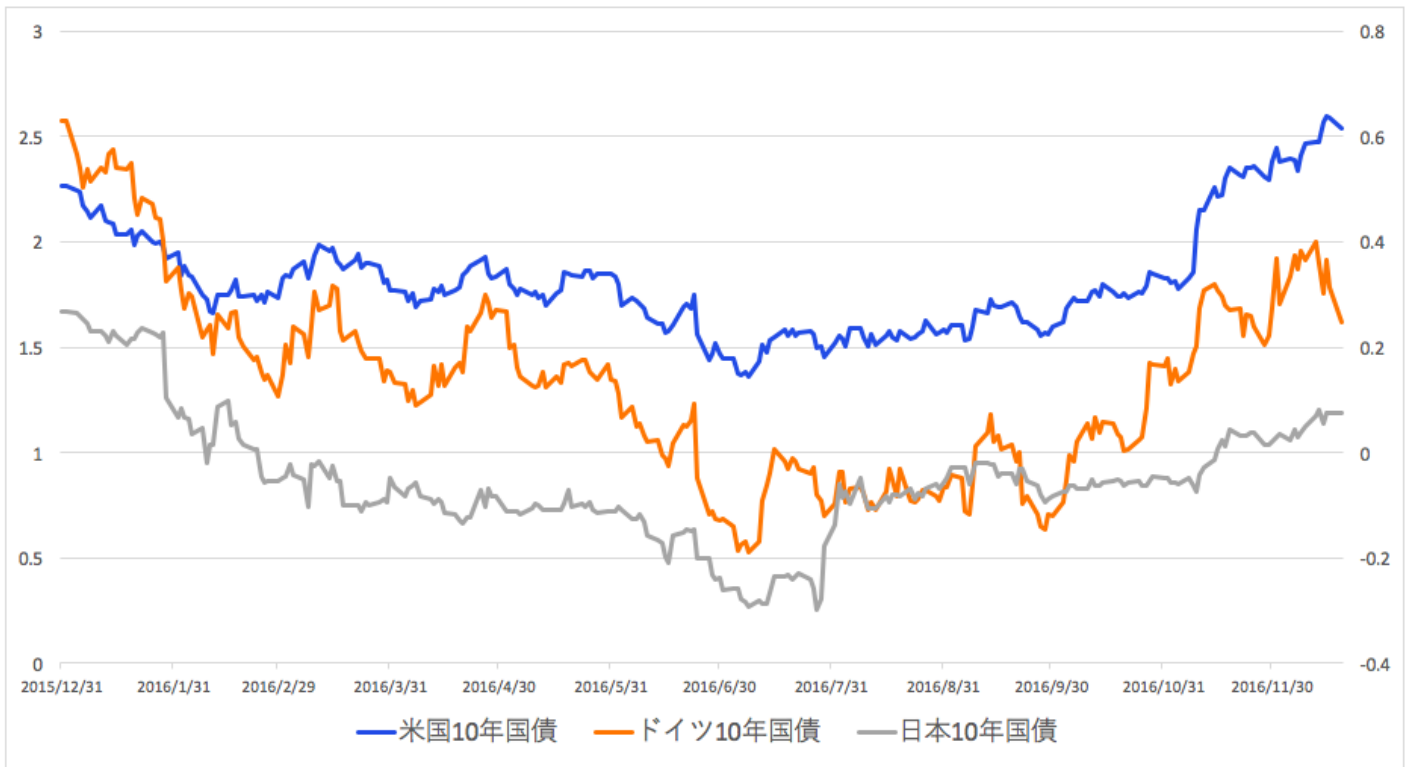
2016年のグローバル株式は、中国の経済成長減速などのグローバルな景気に対する懸念から、急落して始まりました。ただ、下落もつかの間、その後原油価格の急反発など景気が急激に悪化する懸念が後退したことから直ちに回復をみせました。そこで迎えたのがBrexit（英国が国民投票でEU離脱を選択）と米国大統領選挙です。6月のBrexitは予想外の結果であり、一時的に市場は混乱しましたが、早々に落ち着きを取り戻しました。その後、今年最大イベントであった米大統領選では事前予想に反してトランプ氏が勝利し、トランプ新政権の下での税制改革、財政支出拡大、規制緩和などポジティブな面がフォーカスされ、株式市場は上昇し、年末を迎えています。



<債券市場>

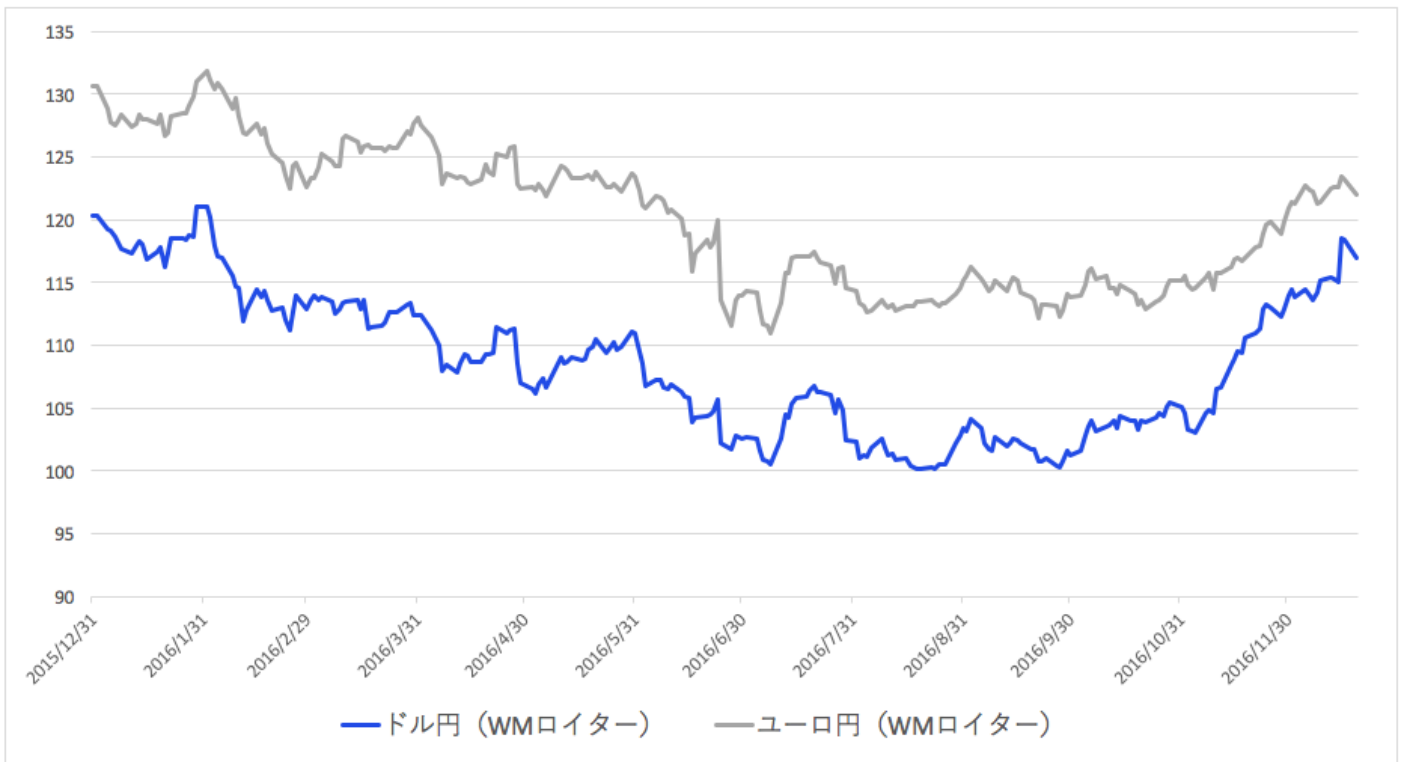
今年の債券市場は、各国の金融政策に左右された一年でした。米国では、大統領選後のトランプ次期政権の拡張的な財政政策への期待に加え、12月にFOMC（連邦公開市場委員会）が1年ぶりに0.25%の利上げを決定し、利上げのペースを2回から3回に上方修正したことにより、金利が押し上げり、債券価格は上がって終わりました。

た。半面、欧州市場では、ECB（欧州中央銀行）の追加緩和を受けてマイナス金利がさらに進みました。ユーロ圏の消費者物価が2019年も2%未満という当初の目標を下回る見通しをECBは示しており、金融緩和の長期化が示唆されます。日本の債券市場では日本銀行が年初にマイナス金利を初めて導入し、10年国債の金利は史上初めてマイナス圏に突入しました。一方で、米大統領選後はインフレ期待が金利を押し上げ、再びプラス圏へ浮上しましたが、低金利は続いています。



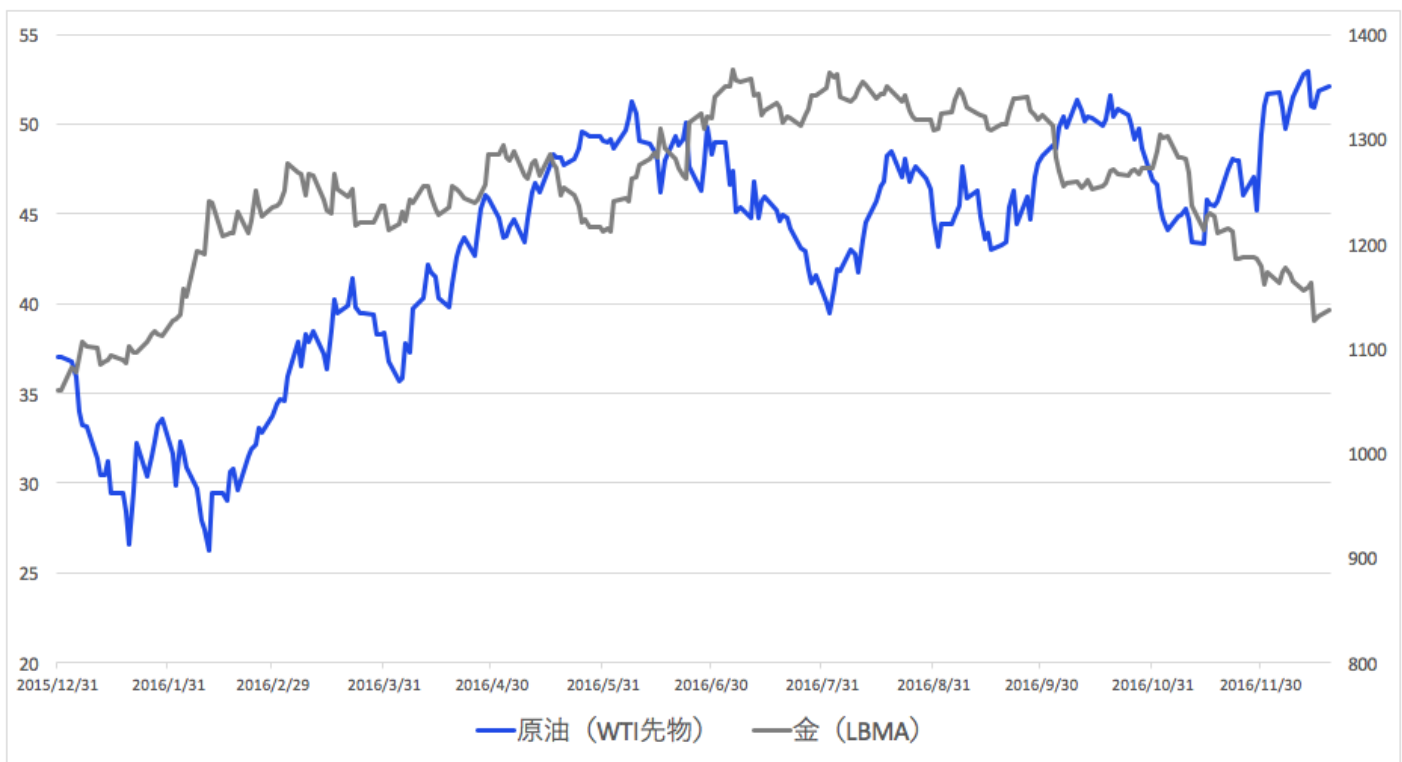
<為替>

2016年の為替相場もまた、政治イベントおよび主要国の金融政策の方向性の違いに左右された1年となりました。120円で始まった今年の前半のドル円レートは日銀によるマイナス金利政策に対する副作用や、Brexitというイベントを経て100円を割りました。米大統領選後はその状況が一転して、トランプ次期米大統領の経済政策による成長期待から米金利が上昇し、ドル高円安が進んでいます。ドル高はその他主要国通貨でも進んでおり、米ドル指数は2002年以来の高値となっています。



<商品市場>

WTI原油先物は年初にあった中国経済に対する不安感が後退したことや、産油国間で原油の増産凍結といった生産協調の動きができたことを受けて、値段が動きましたが、11月のOPEC定例総会で、減産の最終合意がされ、1年を通して振り返ると年初の最安値から約1.4倍上昇しました。一方、金の価格はドル安の局面やBrexit 時では値段が上がりましたが、米国大統領選挙後は強いドルを受けて値段が下がり、原油とは反対に価格の下落トレンドで年末を迎えています。



2016年は始まりと終わりでは市場環境が大きく異なり、注目された政治イベントでは、結果も市場の反応も予想外でした。改めて分散投資の有効性が見直された1年だったと考えます。今後、Brexit や米国大統領選挙の結果を受けて保護主義的な潮流が高まるリスクはありますが、過去を振り返ればリーマンショックなどの大きな

イベントも長期的には希薄化をしています。とはいうものの、その時の相場環境により選好される資産は異なりますので、常にリスクを分散して資産を保有することが安定的な資産運用につながると考えています。

データ出所 : Bloomberg

文章は2016年12月22日に執筆されました。